会派さきがけ＋1　研修報告書　　平成31年3月29日

研修場所　　兵庫県宝塚市・西脇市・明石市・神戸市

研修内容　　逆瀬川駅前再開発事業

西脇市「みらいえ」（図書館を核とした多機能施設）

明石市あかし市民図書館（駅前再開発）

人と防災未来センター（神戸市）

参加者名　　塩田　勉、佐々木　喜一、播磨　博一、佐藤　誠洋、寿松木　孝

研修日程　　平成２８年３月２５日（月）～２７日（水）

２５日

秋田空港－伊丹空港－逆瀬川駅－三宮駅－神戸市内泊

２６日

ホテル－西脇市「みらいえ」－明石市市民図書館－神戸市内泊

２７日

ホテル－防災未来センター－三宮駅－伊丹空港－秋田空港

研修経費

＊内容は別紙

合　計　３４６，９８６円　÷　５人　＝　６９,３９７円

一人当たり負担金　６９，３９７円　　以上の通り報告致します。

平成31年 3 月 29 日

播磨博一 印

[別　紙]

月　日	金　　額	適　　用
3月1日	315,900	旅費(航空機・宿泊代・レンタカー代含む)
3月25日	1,080	高速代(ETCのため領収書なし)
	2,350	470円X5(電車賃のため領収書なし)
	1,400	280円X5(電車賃のため領収書なし)
3月26日	6,020	高速代　領収書別紙
	760	タクシー代(レンタカー会社まで1台分)
	1,360	タクシー代(レンタカー会社からホテル2台分)
	800	駐車料金(あかし図書館)
	2,776	レンタカー用ガソリン代
3月27日	2,640	タクシー2台分(防災未来センターまで)
	3,000	防災未来センター入館料@600円
	1,050	～三宮駅(バスのため領収書なし)@210円
	5,250	～伊丹(バスのため領収書なし)@1050円
	1,520	空港駐車料金
	1,080	高速代(ETCのため領収書なし)
合　計	346,986円	

逆瀬川駅前再開発事業について

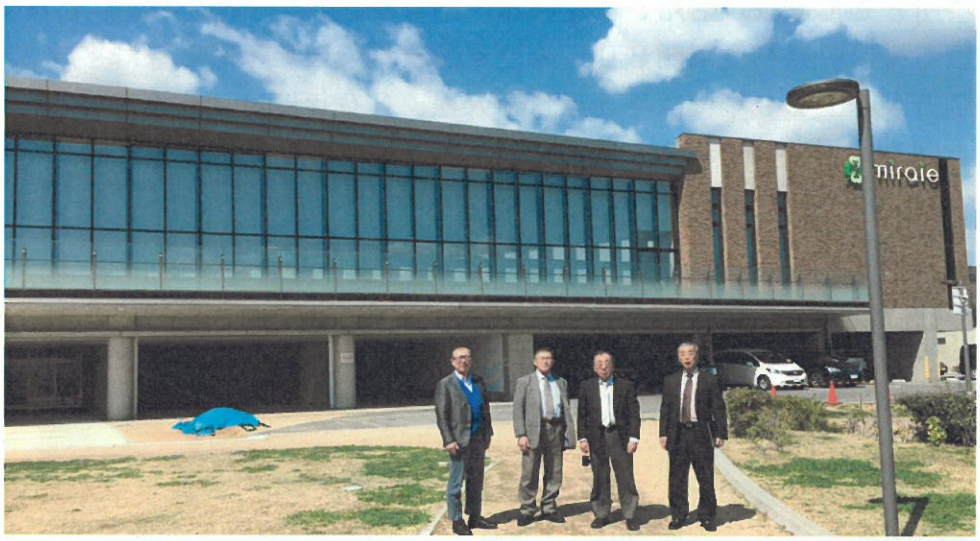
宝塚市は、昭和４８年に逆瀬川駅周辺地区再開発基本計画(5.1ha)を策定し、第1 種市街地再開発事業の都市計画決定を告示し、昭和６２年にアピア逆瀬川の完成に至った。
しかし、周辺都市で郊外ショッピングセンター等大規模商業集積施設が次々オープンし、アピア逆瀬川の競争環境は変化、その商業吸引力は次第に低下し大型テナントの撤退などもあり対策協議会を設置、リニューアル事業のための資金調達方法を模索し、国の補助金である「戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費補助金（補助率３分の２）を獲得し、リニューアル事業実施を目指すことになった。
そして、戦略中小補助金の申請主体とする第三セクターの宝塚まちづくり会社を設置し、側面的支援を行い、損失補償を行うことを決定し民間金融機関３行と各行６億円の損失補償契約を締結し、宝塚まちづくり会社は、これらの金融機関から総額１８億円のつなぎ融資の実行を受け事業をスタートした。
そして平成２０年にリニューアルオープンとなったが、その後の平成２１年には同社が遂に資金繰りに窮し経営破たん、宝塚市は、金融機関に対し、６億４１３万２３９２円の損失補償を実行した。
その後２０１１年６月、兵庫県宝塚市逆瀬川のショッピングセンター『アピア3』は、『カルチェ・ヌーボ宝塚逆瀬川』へと名称変更を行い、リニューアルオープンを果たしたが、それから６年経過した平成３０年に、再びリニューアル工事し名称を『アピア3』に戻した、これがこれまでの経緯だった。
今回の視察は、最後に実施したリニューアルから１年足らずしか経過していない中だったが、我々が視察したのは平日の日中からか、閑散とした状況にあり空き店舗スペースもあり心配される状況と感じた。
行政主導の賑わいの創出の危険性に警鐘を鳴らす事例と感じられた。

所　感

市街地中心部の大規模再開発事業であった。宝塚市というネームバリューからすると、かなりのにぎわいを想像して視察したが結果は逆だった。計画から事業実施、その後の状況変化すべての段階において見通しの甘さ、対応のまずさの連鎖がこういう現状につながっていると感じた。結果的に市民にも多大な負担を強いることになった行政の責任は大きい。事業ありきの体制への警鐘としてとらえられると思う。

西脇市茜が丘複合施設Miraie「みらいえ」

西脇市茜が丘複合施設 Miraie（みらいえ）は、“人つどい　人つながり　人はぐくむ　交流の場”として平成 27 年 10 月に誕生した施設で、こどもプラザ・男女共同参画センター・図書館・コミニュティセンターと 4 つの機能を併せ持ち、子どもから大人まで誰もが楽しみながらゆっくりと過ごすことができることをコンセプトに整備されている。
設置されている場所は西脇市が新興住宅街として開発された地域に設置され、敷地面積24000㎡、延床面積5188㎡程の２階建ての建物で、総事業費約３４億円（土地17億円・建物17億円程）で整備されており、施設の特徴である「こどもプラザ」は屋内施設だけでなく屋外の遊具なども充実しており、平日にもかかわらず多くの親子連れが利用されていた。
図書館は、1806㎡の面積があり蔵書は約１８万８千冊、職員数１３名で正規２名・嘱託２名・臨時９名でＩＣタグを活用した運営がなされており、コミニュティセンター機能は、３００名が収容可能な大ホール・調理室・音楽室・会議室などの様々な部屋も設けられており、子どもから高齢者まで様々な年代の方々が集う場所として施設が活用されていると感じた。
これを裏付ける様に、当初は年間２０万人と見込まれていた来館者数は平成２８年度は４７万人程、２９年度は４５万５千人程、３０年度は４６万人程と想定を大きく上回る利用者数であり、複合施設としての一つの成功事例と感じた。

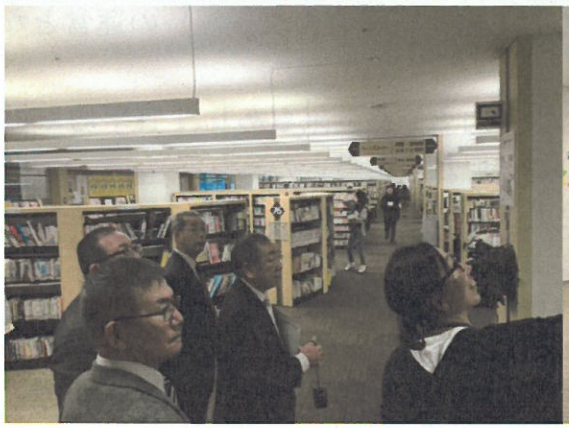


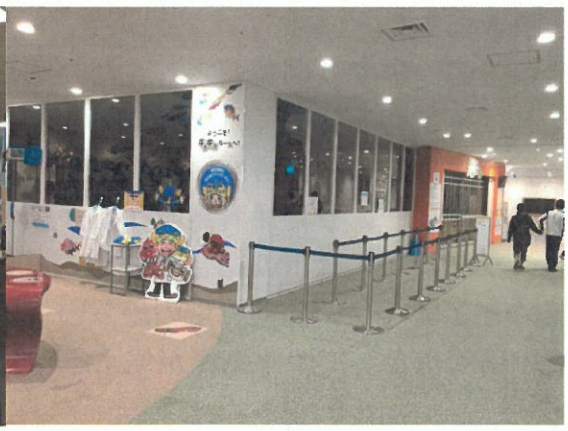
所　感

広々とした敷地に平成27年10月オープンした、児童館機能、男女共同参画、図書館機能、地域のコミュニティセンター機能を有する複合施設。素晴しい環境の中にあった。コミュニティーセンターは地域で指定管理されている。幅広い年代層が利用しやすいようにユニバーサルデザインに基づいた設備を導入するなどしている。年間目標利用者数20万人に対して倍以上の利用者がいることもうなづけた。

明石市民図書館について

2017 年、明石公園内にあった旧本館から南へ約 700 メートルの場所にあるJR・山陽明石駅南側の複合商業施設「パピオスあかし」4 階に移転し開館した。民間の複合商業施設内に入居する形態の公立図書館本館は、兵庫県では他に加西市立図書館（アスティアかさい 3・4 階）と川西市立中央図書館（アステ川西 4・5 階）がある。
パピオスあかしでは 5 階に児童館機能を有する「あかし子育て支援センター」があり、同センターにも約 8000 冊の児童書を配架したこども図書室が設置されているが、図書館とは別組織（明石市こども未来部子育て支援課）の運営となっているようだった。
移転後は開館時間の延長や交通の便が大幅に向上した効果もあり、1 日平均 4500 冊と旧本館の実績に比べて約 2 倍の貸し出し冊数があるとの事だった。
また、図書館の運営は民間に指定管理されており、新たな図書館の開設に併せして管理業者も変更になったとの事であった。
尚、指定管理料は本館と西部図書館、移動図書館の全ての管理運営も含み３億７千万円程との内容だった。
また、この施設の指定管理先の志水館長には突然の視察にも拘らず丁寧な説明を頂きました。
その説明の中で「図書館らしくない図書館にしたい」との強い思いの中で様々な試行をされるなど民間ならではの取組みの姿勢に感銘を受けた。
明石市ではこの駅前再開発に併せた庁舎機能の移転も行われ、５Ｆには子育て支援センター、一時保育施設、親子交流スペース、中高生世代交流施設、などが、また６Ｆには市の総合窓口やこども健康センターも設置されており、図書館にとどまらない多機能型の施設整備がなされており、この駅前再開発に対しての明石市としての本気度が伺える内容と感じた。





所感

「本のまち明石」を自負する館長さんの説明がすごかった。3社による競争を勝ち上がって指定管理を受けた自負と責任感の現れかとも感じた。単に駅前という立地条件のみならず、児童・生徒を意識した複合施設機能、市内70ヶ所に移動図書館を走らせ、市民に等しくサービスを提供するなど、その他各種のユニバーサルサービスなどもあり広く市民に受け入れられているのではと感じた。こういった運営はもはや先進的というよりはスタンダードになっていくのでは。

人と防災未来センターについて

ある日突然発生し、甚大な被害をもたらす自然災害が多発している事から、その被害を少なくする減災のために設置された施設で、平成１４年に兵庫県が設置し、公益財団法人ひょうご震災記念２１世紀研究機構が運営を行っている。阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に生かすことを通じて、災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に貢献することをミッションとし、「減災社会の実現」と「いのちの大切さ」「共に生きることの素晴らしさ」を世界へ、そして未来へと発信し、さらには、世界的な防災研究の拠点として、災害全般に関する有効な対策の発信地となることを目指すとした施設で、来館時に震災を経験された多くのボランティアの方々から、その実体験を通しての詳細な説明には驚きの連続だった。

所　感

壊滅的な災害を経験したことがない自分にとって、こういう施設を見学するのは大いに勉強になる。特にここは当時の状況を詳しくボランティアの方が説明してくれるので、現実味が伝わってくる。被害を未然に防ぐ、あるいは最少限にとどめる対策も重要だが、合わせて被害が発生してからの対応の大切さと難しさも感じた。